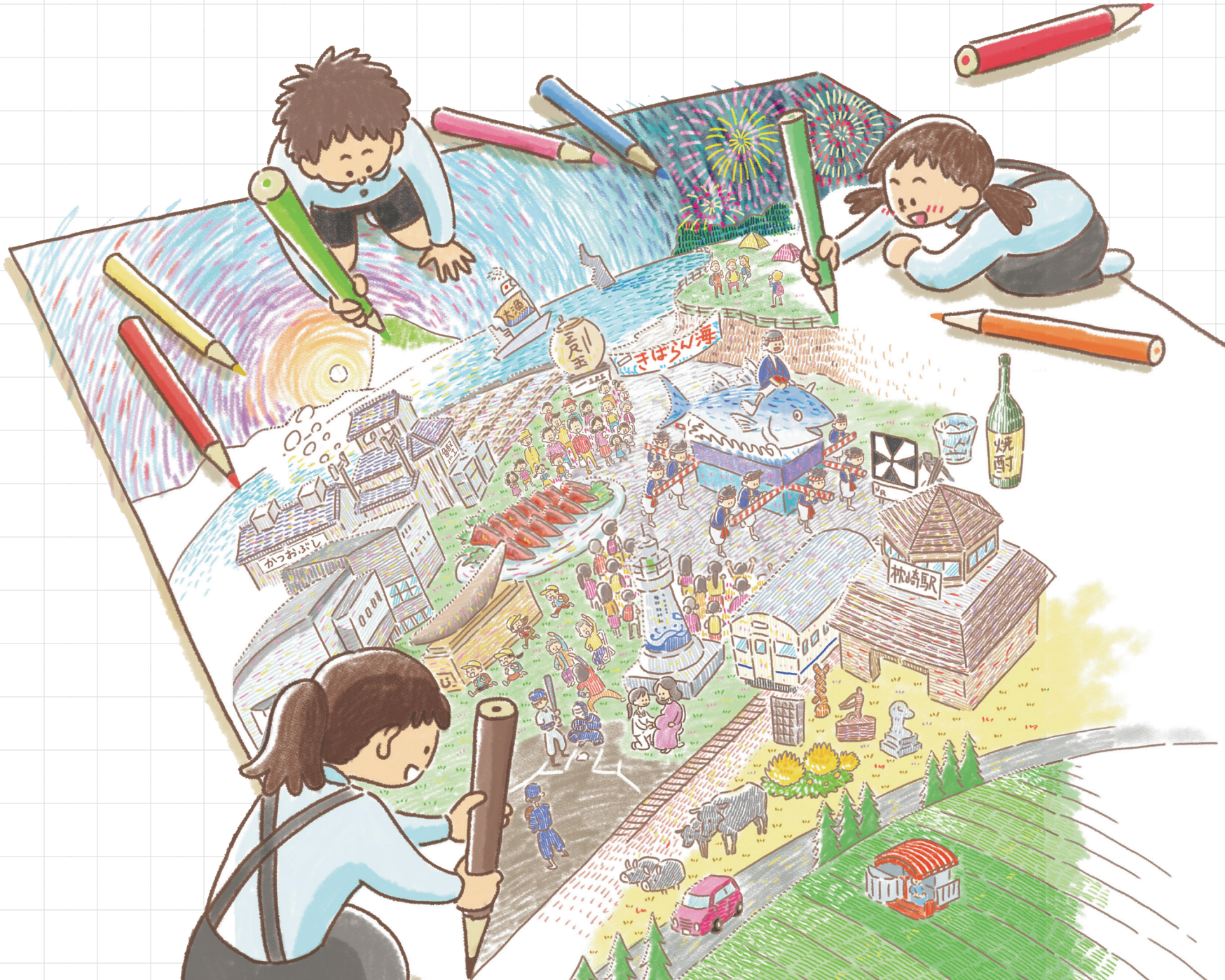
まちの誇り 自然の恵み
未来へつなぐ 幸せ共創都市

第7次枕崎市総合振興計画

概要版



まちの誇り　自然の恵み　未来へつなぐ　幸せ共創都市

この将来都市像には、今の枕崎市の良いところを大切にしながら、様々な人たちがそれぞれの個性や強みを生かして関わり合い、「心と物の豊かさ」や「暮らしやすさ」を高めていこうという意味があります。また、そのような素晴らしいまちを次の世代へつなぎ、将来においても枕崎市に関わる全ての人々が幸せになれるようにしたいという未来への想いも込められています。

枕崎市民が感じている まちの誇り

※市民アンケートより

- 治安の良さ
- 豊かな自然・景観
- 豊富な特産物

など

- 本市の強みや魅力を生かしたまちづくりを期待する声が多く寄せられました。
- 市民一人一人の幸せにつながるとともに、これからのまちづくりを進めていくうえで大きな力になります。

枕崎市の 自然の恵み

- 温暖な気候
- 豊かな海
- 美しい海岸線
- 三方に連なる山々

など

- 本市の強みである水産加工業や農林水産業を支える大切な基盤となっています。
- 市民の幸せだけでなく、枕崎市を訪れ、関わる人々にとっての満足感や愛着を生み出します。

未来へつなぐ

まちの誇り・自然の恵みを次世代へ継承しつつ、新しいことへも挑戦し、協働によって未来を育むことで、

「現在」の幸せを確かなものとし、「未来」の幸せを創造していきます。

第７次枕崎市総合振興計画は

本市が目指すべき将来都市像や基本目標と、それを実現するための施策を体系的にまとめた「まちづくりの最上位計画」です。福祉、都市計画、教育などすべての分野の個別計画の指針となり、行政運営の根幹となる計画です。

将来都市像や基本目標を示した「基本構想」は 2026 年度から 2035 年度の 10 年間、施策や具体的な取組を示した「前期基本計画」は 2026 年度から 2030 年度の５年間を計画期間としています。



今後 5年、10年の まちづくりの指針になります



世界的にウェルビーイングの考え方が広まりつつあります。

これまで、経済的な豊かさが人々の幸せとされ、経済の豊かさを示す指標としてGNP（国民総生産）やGDP（国内総生産）が用いられていました。しかし、国の経済力が向上しても、市民の生活が豊かでなければ、本当の意味での豊かさとは言えません。

このような背景から、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを重視するウェルビーイングの考え方が広まりました。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に満たされ、良好な状態にあることを指します。

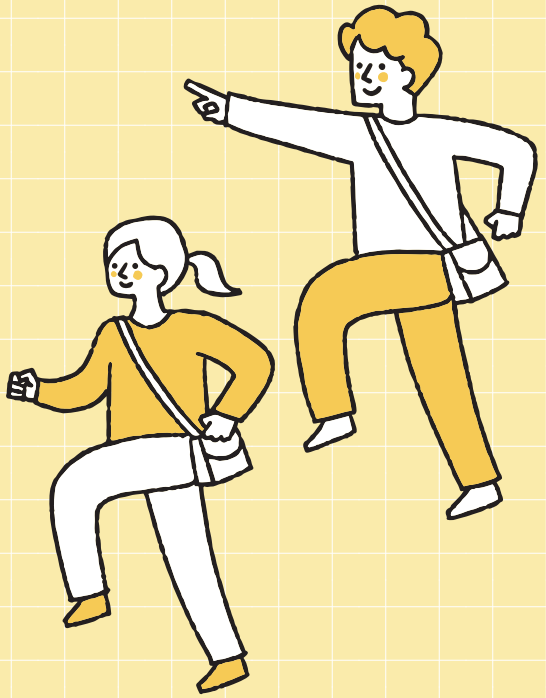
本計画では、市民の「幸福度」に着目します。

本市はこれまで、独自の歴史や文化を守り続けながら、地域の一体感や市民の誇りを育んできました。地域が真に豊かになるためには、これらの歴史や文化、市民一人一人が大切にしてきた誇りを尊重しつつ、まちづくりを進めていくことが重要です。

そこで本計画では、市民の幸福度に着目し、市民の思いや実感をより的確に反映したまちづくりを目指すこととしました。

「幸福度」はどうやって測るの？

市民の幸福度はアンケートによって測定します。総合指標として「幸福度」と「生活満足度」、個別指標 として「医療・福祉」や「買い物・飲食」など全 24 のカテゴリーを定め、それぞれの指標を測定するため の設問を設定します。



「幸せ共創都市」の実現に向け、「幸福度」による成果目標を設定しました。

「幸福度」による成果目標の設定

2035（令和17）年の成果目標

幸福度　64.5%（基準値）を上回る

生活満足度　45.1%（基準値）を上回る

POINT

- 経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさも重視します。
- 幸福度の指標を活用し、市民の想いや実感をより的確にまちづくりに反映します。
- 各年代の幸福度、生活満足度の向上も図ります。

成果目標で用いた「幸福度」、「生活満足度」以外にも様々なカテゴリーの指標があり、本市の現状を市民目線で把握することができます。
総合振興計画本編で詳細を確認してみよう！

カテゴリー別、年代別の幸福度等［2025（令和7）年］

	項目		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
総合指標	幸福度	割合	74.3	65.6	50.7	57.1	55.3	54.6	61.9	64.5
		実数/有効数	278/374	42/64	38/75	48/84	47/85	53/97	60/97	568/880
	生活満足度	割合	56.1	38.1	26.7	21.4	38.8	39.6	54.6	45.1
		実数/有効数	208/371	24/63	20/75	18/84	33/85	38/96	53/97	395/875
個別指標	医療・福祉		56.4	44.5	23.3	25.9	32.0	44.0	54.9	45.8
	買物・飲食		47.9	43.8	29.3	35.3	28.1	36.6	42.0	40.9
	住宅環境		68.2	67.7	63.8	61.0	61.9	59.7	60.3	64.7
	移動・交通		42.6	7.8	4.0	4.7	1.2	6.2	6.1	21.0
	遊び・娯楽		30.6	9.4	2.7	1.2	1.2	5.2	4.1	15.2
	子育て		47.8	14.1	20.0	9.4	14.0	16.4	23.2	29.8
	初等・中等教育		72.5	38.3	42.3	38.6	32.0	45.5	56.3	55.4
	地域行政		47.1	19.5	17.0	12.2	12.8	18.8	33.2	31.1
	デジタル生活		40.5	15.7	8.1	8.1	3.5	9.4	11.6	22.6
	公共空間		64.3	57.0	48.0	36.6	36.0	42.3	54.7	53.4
	都市景観		37.5	35.9	19.2	18.6	23.5	18.6	34.7	30.2
	自然景観		56.6	68.8	58.9	51.8	59.3	48.5	53.8	56.3
	自然の恵み		70.1	73.4	68.9	59.9	64.3	68.0	68.4	68.3
	環境共生		44.8	31.3	25.7	17.4	21.2	27.8	28.9	33.6
	自然災害		51.7	29.7	16.2	19.8	17.4	26.3	36.1	36.1
	事故・犯罪		51.7	40.2	28.4	25.6	21.5	29.4	42.0	39.8
	地域とのつながり		57.3	40.6	35.2	35.3	33.6	44.0	50.6	47.5
	多様性と寛容性		40.4	16.6	11.2	9.8	9.8	10.8	18.9	24.5
	自己効力感		49.7	46.0	37.3	35.3	45.2	40.4	41.2	44.6
	健康状態		72.8	57.1	61.3	61.4	62.4	59.6	61.5	65.9
	文化・芸術		61.9	55.6	47.3	40.7	45.6	48.0	52.6	54.0
	教育機会の豊かさ		52.0	12.7	12.0	8.1	7.1	19.2	21.6	30.1
	雇用・所得		26.1	11.9	4.7	3.5	2.9	8.2	6.3	14.6
	事業創造		42.0	6.3	5.3	2.3	1.2	4.1	9.6	20.6

基本目標１　活気とにぎわいのあるまち

産業経済

市民の声

目指すべきまちづくりについて、「若者が定着する魅力あるまち」という回答の割合が最も高いです。



海と山に囲まれた自然豊かな環境には、枕崎にしかない特別なものが詰まっている。昔から守られてきた行事、農林水産業等が、世界で価値を生み出す可能性もあります。



新しい産業の柱を作るべきではないだろうか。



まちの課題

人口減少や少子高齢化の進行により、担い手確保や技術・技能の継承が難しくなっています。



消費者ニーズの多様化や国際環境の変化、デジタル化の急速な進展など、外部環境の大きな変動に対応する柔軟な体制が十分に整っていない状態です。



新たな価値創出につながる産業連携や人材育成、地域資源を生かした魅力発信などを戦略的に進め、持続的に成長できる産業構造への転換が必要になっています。



目指す状態



- 高いブランド力を持ち、水産業・水産加工業によって稼げるまち
- 農業において、農地が安定的に確保され、稼ぐしくみができ、農家が安心して農業経営を行えるまち
- 業務の効率化や、組織間の連携によって、商工業の活力が維持されているまち
- 地域の食や自然、観光に関する情報が多くの人に届き、「訪れてみたい」と思われているまち
- 若者をはじめ誰もがいつまでも住み続けたいと思えるまち　等

施策



- 水産業・水産加工業において、需要を把握するための市場調査や新商品の開発
- 次世代を担う農業者になることを目指す市民に対し、就農直後の経営を支援
- 小規模事業者を対象に、DXなど生産性向上の取組に対する支援
- 若年層の就業者への支援として支援金を給付
- 雇用機会の拡大につながる企業の設備投資の支援
- ふるさと納税の受入額拡大や関係人口創出に向けた効果的な情報発信
- 移住ポータルサイトにおいて、住宅や子育てなどの様々な情報を高い頻度で発信　等

市民の声

重要度－満足度調査において、健康・福祉分野では「子育て、出産の支援」に関する取組の重要度が高く、かつ満足度が低くなっています。



特色のある人材を育成するための場、環境を創出することが重要だと思います。



子どもが遊べる場所や、子どもが他の世代と交流できる機会を増やして欲しいです。



まちの課題

ライフスタイルに対する価値観が多様化する中で、個人・家庭ごとの結婚、出産、妊娠に関するニーズに十分応えきれていません。



特色のある教育施策があるものの、子育て期の世帯に十分認知され、子育てに適したまちとして評価される段階には至っていません。



子どもの成長に関連する取組として子育て施策と教育施策を切れ目なく一体的に推進し、より高い効果を生み出すことが必要です。



目指す状態



- 結婚、妊娠から出産・子育てまで切れ目のない支援体制が整っており、個人のライフスタイルに応じて安心して人生の選択ができるまち
- すべての人がそれぞれの特性に合った教育を受けられ、個性と能力を伸ばせるまち
- 誰もが安全・快適にスポーツに参加することができ、健康と交流の広まりの中で市民が幸福を感じるまち
- 市民が日常的に文化芸術に触れ、創造・鑑賞・発信を楽しむ「文化のある暮らし」が実現されているまち　等

施策



- 妊娠期や子育て期の不安解消のため、健康教育や訪問事業を実施
- 子育てガイドブックを配布し、子育てに関するサービスや、幼稚園・保育所等での子育て支援、医療機関などについての情報を提供
- 子どもたちが関わる地域行事の実施や、地域人材による学習支援などの地域教育力の向上
- 「ＧＩＧＡスクール構想」におけるネットワーク環境整備など学びの環境整備や、教職員へのデジタル教育支援の充実
- 宿泊・観光施設と連携し、スポーツツーリズムの継続開催と誘致を強化
- 市民が集い交流できる文化拠点として南溟館を整備　等

基本目標３　健康でいきいきと暮らせるまち

健康・福祉

市民の声

必要な施策について、「高齢社会を迎えて、福祉・医療・生きがいづくりの対策を充実させる」という回答の割合が最も高くなっています。



高齢化が進む中で、世代間交流を活発化し、健康寿命を延ばしていくことが重要だと思います。



地域における人と人とのつながり、交流を強めることが、福祉体制の強化にもつながると考えます。



まちの課題

医師の偏在や医療従事者の不足、高齢化による医療・介護ニーズの増大など、地域の医療提供体制に多くの課題が生じています。



価値観の多様化や地域のつながりの希薄化により、地域福祉を支える担い手の確保が難しくなっています。



環境変化に的確に対応し、誰もが安心して暮らせる地域を維持するため、人口構造の変化に適応した医療・福祉体制の強化が必要です。



目指す状態



- 市民一人一人が自ら健康づくりに取り組み、生涯を通じて健やかに暮らせるまち
- 地域の医療資源が安定的に確保され、市民が安心して必要な医療を受けられるまち
- 地域福祉活動や環境整備が充実し、市民の様々な「困りごと」に対して、地域、行政、社会福祉協議会、その他の関係機関が連携し、解決に向けて取り組むまち
- 高齢者等が住み慣れた地域で保健・医療・福祉サービスを享受でき、安心し、生きがいを持って暮らせるまち　等

施策



- 生活習慣病重症化予防のため、高血圧対策プロジェクトを推進
- 母子保健活動や乳幼児健診等を充実させ、健康な成長を支援
- 市外の医療機関との連携を深め、市外への搬送体制を維持
- 市立病院に小児科を開設し、平日も小児患者を受け入れ
- 社会福祉協議会をはじめとする関係団体等との連携を密にし、相談・助言業務を充実
- 地域の高齢者の実態把握に努め、高齢者の様々な相談を受け止め、適切かつ継続的に支援
- 地域で暮らす認知症の人やその家族の応援者となる「認知症サポーター」を養成　等

基本目標４　安心・安全・快適なまち

生活環境・都市基盤

市民の声

重要度－満足度調査において、都市基盤分野では「公共交通の充実」に関する取組の重要度が高く、かつ満足度が低くなっています。



道路の老朽化が進んでいます。水道施設も含め早めに対応を進めて欲しいと思います。



大規模災害に備え、組織間の連携を強化することや、避難所を整備することが重要だと思います。



まちの課題

住宅、公園、上下水道、道路など都市基盤の老朽化が顕在化し、更新や維持管理に必要な財源や体制の確保が課題となっています。
災害の激甚化に備えた防災インフラの整備や、土地利用の最適化も十分に進んでいません。



地域のつながりが希薄化し、市民の生活や防災を支える仕組みの力が弱まっています。



インフラ更新や防災対策といったハード面の強化に加え、地域力の向上や担い手育成などソフト面の取組を一体的かつ計画的に進めることが必要です。



目指す状態



- 全ての人が安心・安全な環境で暮らせるまち
- 海や山、川、動植物などの自然が美しく維持されているまち
- 自助・共助の仕組みが確立され、災害発生時に人や物資、情報等が必要な場所に速やかに届けられるまち
- 中心市街地に生活・福祉・商業・文化機能が集約され、日常の暮らしが徒歩圏で完結する「拠点型都市構造」が形成されているまち
- 持続可能で市民の利便性の高い公共交通が提供されるまち　等

施策



- 利用度の低い身近な公園を対象に、地域のニーズを反映した公園整備を推進
- 老朽化した水道管路、浄水・配水施設の更新及び人口減少に伴う施設のダウンサイジングの実施
- 子どもの自然環境に対する関心を高めるため、環境ポスターの募集等や出前授業等の実施
- 排水ポンプ施設の更新、水路の改修、移動式ポンプの導入など、内水氾濫防止の取組
- 大規模災害に対応するための各種資機材を整備して災害対応能力の向上
- 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を策定し、居住誘導区域に誘導
- 市民の利便性に配慮し、本市の特性に対応した新しい公共交通の導入　等

基　盤　基本目標を達成するための基盤

共生・協働、人権、ジェンダー平等、行財政 等

市民の声

重要度－満足度調査において、行財政分野では「職員の能力向上」に関する取組の重要度が高く、かつ満足度が低くなっています。



「オール枕崎」の体制を構築し、市外からの視点も取り入れながら、新しいことにチャレンジするべきだと思います。



協議会やワークショップをせっかく開催するのであれば、その結果を何かに反映するなど、実りある形にして欲しいです。



まちの課題

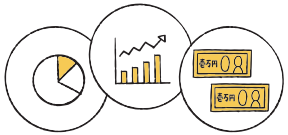
行政と市民、また多様な主体との間で、十分な情報共有や意思疎通がされておらず、協働や多文化共生のための基盤が弱いという課題があります。



ジェンダー平等の意識を市全体に浸透させるため、多様な人権課題に対する理解促進等の取組が必要となっています。



行財政運営において、業務の効率化や人材育成、財源確保などの面で課題が見られます。



目指す状態



- 地域の課題解決や活性化に向けて、市民が主体的に考え、活動する活力のあるまち
- 多様な価値観を認め合いながら、異なる文化や生活習慣の違いを理解し、尊重するまち
- 性別、年齢、国籍等にかかわらず、一人一人が個人として尊重され、誰もが自分らしく暮らせるまち
- 社会の変化にしなやかに対応し、限られた資源を最大限に生かして、未来にわたり質の高い行財政運営が続くまち　等

施策



- 市長と語る会などの機会を通じて、市民の意見やニーズを把握
- 市民協働の担い手の育成を目的とした事業の実施
- 人権問題に対する正しい知識の普及活動や人権教育を実施し、学習・啓発の機会を提供
- 高齢者等ＩＴに不慣れな市民もデジタルサービスを利用できるよう、庁内や公共施設に支援窓口・相談体制を整備するとともに、スマホ等に不慣れな方を対象とした講座を開催
- 枕崎市の男女共同参画に関する計画に基づく取組
- 新庁舎建設に関する基本構想の策定、スケジュール、規模、場所、機能等の決定の取組
- デジタル技術導入の積極的な推進、社会の様々な課題の解決、効率化への取組
- 社会経済情勢の変化に対応しつつ、歳入・歳出のバランスのとれた計画的な財政運営　等

重点プロジェクト

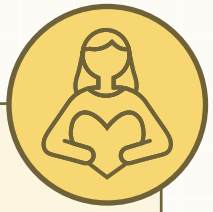
第３期枕崎市地方創生総合戦略

第３期枕崎市地方創生総合戦略は、第２期枕崎市地方創生総合戦略の４つの政策分野の方向性を引継ぎつつ、国が示す「地方創生 2.0」の政策の５本柱を踏まえ、本市の課題解決や活性化を目指し、総合振興計画の４つの「重点プロジェクト」として位置づけました。各施策の充実により、「選ばれるまち」に戦略的に昇華させることで、人口ビジョンで示す「目指すべき将来人口」の達成を図ります。計画期間は令和８年度から令和12年度です。



PROJECT1
産業が発展する「稼ぐ力」のあるまち プロジェクト

持続可能なまちづくりを推進するには地域の「稼ぐ力」を高め、域外からの富の流入と域内の経済循環が必要です。地場産業の飛躍につながる施策と企業誘致や新産業創出支援などを強化し、地域資源のさらなる高付加価値化を図ることで、産業の競争力、成長力の促進や多様な主体の活躍による安定した雇用と所得向上を目指します。



PROJECT2
若者や女性に選ばれるまち プロジェクト

人口減少が進む中、地場産業の維持や様々な生活サービスを持続させていくためには生産年齢人口の増加が必要であり、特に若年層と女性の定着が重要です。若者や女性が住みたいまちとして枕崎市が選択されるよう、多様な働き方で仕事をしやすく、結婚・妊娠・出産・子育てのサポートが充実しているなど、安心して仕事と子育てができ、趣味や余暇を楽しみながら、心豊かに過ごせる生活インフラの整備を目指します。



PROJECT3
多くの人とつながるまち プロジェクト

東シナ海に面し、温暖な気候と自然に恵まれた本市には「枕崎ならでは」の魅力がたくさん詰まっています。産業や観光をはじめとした本市の魅力をさらに磨き、最大限に発信し、多くの人々が本市と多層的につながることで、活気あるまちを実現するとともに、移住定住につながる関係人口の創出を目指します。



PROJECT4
多様なひとが安心して暮らせるまち プロジェクト

多くの人の活躍でまちが賑やかになり、地域経済が活性化することや、移住先・定住の地として「選ばれるまち」になるためには、多様な人が尊重され、安全で快適に住み続けられるまちづくりが必要です。防災体制の強化や環境への配慮などの生活基盤の整備のほか、多様な主体が活躍し、社会参画や自主的に連携して地域を支える活動を促進することで、生活の質を向上させ、住民満足度の高いまちを目指します。

枕崎市の未来は、 ここに暮らす市民の皆さまの想いや行動の積み重ねによって育まれていきます。本市が誇る豊かな自然や地域の資源、受け継がれてきた歴史や文化を大切にしながら、多様な主体が関わり合い、支え合うことが、これからのまちづくりの力となります。

また、時代の変化に対応しながら、新しいことに挑戦し続ける姿勢も欠かせません。チャレンジの精神は地域の可能性を広げます。

枕崎市総合振興計画はまちづくりの道しるべです。枕崎に関わるすべての人とともに、「現在」の幸せを確かなものとし、「未来」の幸せを創っていきましょう。

令和8年4月発行

編集・発行 枕崎市

〒898-8501 鹿児島県枕崎市千代田町27番地

TEL 0993-72-1111

枕崎市公式ホームページ
https://www.city.makurazaki.lg.jp/

枕崎市総合振興計画（枕崎市地方創生総合戦略）
https://www.city.makurazaki.lg.jp/soshiki/kikaku/28897.html

枕崎市公式ホームページ

枕崎市総合振興計画
（枕崎市地方創生総合戦略）

